

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400481		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・丸の内		
所在地	〒501-6244 岐阜県羽島市竹鼻町丸の内2丁目13番の5		
自己評価作成日	平成21年5月12日	評価結果市町村受理日	平成21年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170400481&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒501-6232 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内
訪問調査日	平成21年6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・環境に恵まれた中に事業所があることを最大限に利用し、毎日の散歩や文化的行事に参加している。 ・地元老人クラブと音楽療法を通じ交流を始めて3年以上たつこと。 ・事業所内では体操や作業療法を毎日のようにやりその活動は、新聞作成で家族にも知らせている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>羽島市のほぼ中央の住宅街に位置し、交通の便をはじめ、市民の森公園、文化センター、図書館、中央公民館、ドラッグスーパー、食品スーパー、内科、眼科、耳鼻科、有名な寺院などがある環境の中で、利用者一人ひとりが日々の暮らしを楽しんでいる。ホームの中はアットホームな雰囲気、利用者は、日常的に行われている散歩や買い物、外食などに満喫し、健康で笑顔が絶えない生活を楽しんでいる。また、地域住民との交流も積極的で、音楽療法等様々な行事に老人クラブ等の参加があり情報を交換している。ホームが建っている環境を最大限に活用し、地域密着型サービスの先端を行っていることが最大の特徴である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に明示し、内容は廊下に掲示しております。 管理者と職員は常にミーティング、その他の時間を利用して理念共有の話し合いをしています。	母体の夢家族の理念が「安心感」で、各々のグループホームで独自の運営理念を作成しており、利用者やスタッフ、訪問者の目に付くところに掲示してある。職員全員が理念を理解し、日々の支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	一ヶ月に一度の音楽療法で地域の老人クラブと交流を続けています。 また、町内のお祭りに全て参加して地元商店と顔なじみになっています。	毎月行われる音楽療法には、地域の老人クラブの人たちが参加し、大きな声で合唱を楽しんでいる。また、民生委員や市議会議員の訪問が多く、介護サービスをはじめ、様々な話題の情報交換を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽療法やお祭りの参加で身近に接することにより認知症の方の気持ちを分かって下さったり手助けをして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の屋外活動に不便に思うことを取り上げたところすぐに改善に取り組まれ有り難く思います。 他にも多くのご協力を頂いています。	2ヶ月に1回定期的を実施している。テーマはホームの現況は勿論、外部評価の自己評価なども報告説明され、参加委員からの意見が多く出されている。意見や提言は会議録に記録すると共に、ミーティングで他の職員と協議し、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	記録簿やサービス内容の審査で適切にご指導を頂いている。 生活保護利用者には定期的に見回りにも来られている。	運営推進会議に市の担当者が参加しており、その他にも日常的に市役所を訪れ、グループホームの課題や制度改正などについての情報の交換をし指導や助言を得ており、良好な関係が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はなく開放しております。 身体に危険が予測される場合、本人が苦痛にならない対応を考えております。	身体拘束のマニュアルを整理して、機会あるごとに職員間で拘束のないサービスの支援について話し合い、身体拘束のないケアに職員全員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修を受けております。 事業所内で事故が発生した場合どのような状況であったのか注意を払っています。		

グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	多くの研修に参加し学んできたことをミーティングなどで個々の利用者に合わせて相談しています。成年後見人制度は利用者のご家族から教わりました。又、権利擁護研修にも受講申し込みしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の場合は十分な説明がなされています。やむなく退所の場合も本人、ご家族と何度も話し合いを重ねます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族・ケアマネージャー・代表者・管理者また必要があればかかりつけ医の意見も取り入れ運営しています。	運営推進会議に家族から出された意見や面会時に出された要望を、職員で話し合いサービス提供に活かすようにしている。また、意見箱の設置を家族に説明すると共に、職員全員が家族を大切に思い、楽しく会話ができるよう雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングで意見の交換をやっていますし日常の業務時間内でも活発に意見交換しております。	管理者は、毎月のミーティングやホームの行事の準備中などで職員全員が顔を合わせる機会を設け、ホーム運営の現況等を説明報告し、職員の意見を聞くようにしている。出た意見は会議録に記録すると共に、直ぐに取り組めるように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者・職員個々は勤務状況、労働時間などに関してミーティングでお話できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に受けており、職員に伝えている。 職員一人一人に合わせてケアを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修で同業者と積極的に交流させてもらっている。 音楽療法では同業者の訪問を受け喜ばれました。		

グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階で本人の要望に耳を傾ける。本人が説明できない場合には家族に聞く。特に初期は生活状況も伝える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは面会の折や電話等で常に連絡を取り関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階で本人と家族の要望を伺う。その他に事業所が毎日行っているサービスも本人が適応できるのであれば支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が常に明るくマイホームのような、友人のような雰囲気の中で暮らして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の間に立ち必要があれば自由に電話で会話していただいたり、月に一度の生活便りで今現在の心と体の状況も知らせる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって大切な場所や人とは経営者が外出援助をしている。遠方の場合は、電話でゆっくり会話して頂く。	管理者や職員は、利用者が「自宅を見に行きたい」とか「お墓参りをしたい」などの要望を聞き入れたり、利用者の昔話しに耳を傾け、馴染みの調度品や景色、友達等との交流が途切れないよう心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や身体状況に合わせた席を考えてあり共に食事をしたり散歩したりすることで支え合いが生まれている。		

グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体状況の悪化によりやむなく退所し、病院へ移っていただいた方にも本人への面会、家族への電話で支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の語る希望を把握してその思いが叶うよう支援している。 ミーティングに案件として出し全員で検討する。	職員全員が、利用者の話しに時間をかけて聞くようにしている。その中で、「本人が何をしたいか」、「今日どう過ごしたいか」など、意向の把握に努めている。会話が困難な利用者にもゆっくりと話しかけ、目の動きや体の反応で思いを掴んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初に本人、家族から話を聞きアセスメントシートを作成。職歴、趣味などを把握してサービスやリハビリに生かす。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日常生活自立度、その日の心身状態に合わせてその日のサービス内容を決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況、家族の意見を取り入れケアマネージャー職員が絶えず意見交換をして介護計画書を作成している。	ケアマネージャー・職員間で、話し合いがしっかり出来ており、家族の希望や要望、本人の思い等が伝えられている。また、カンファレンスでケアプランの目標が達成できているかどうかを職員間で協議し、次の介護計画に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・業務日誌・申し送りノートでその日の状況を確実に伝達して職員間で確認を怠らないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、心身状況の変わりやすい利用者に対してはその日の状態を職員間で伝達し、家族、医師とも連携を取り合い対応している。		

グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緑の資源、文化の資源、商業地域という恵まれた環境の中にホームがあります。心の栄養と身体能力の維持を保ちながら暮らすことが出来ます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医にかかることができ、受診後は必ず家族に報告している。 希望があれば更に市民病院へと連携がとれる。	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診することが出来るよう支援している。その際にグループホームが通院介助をし、後日家族に状況説明を行うなど情報の共有がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状況の変化に応じかかりつけ医と連携をとる。必要があれば市民病院へと紹介してもらうことになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際しては毎日面会を行い、本人の状況を見て看護職と相談している。また、病院側と家族の間に入り情報伝達をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者にターミナルケアの希望が家族から出され家族と事業所側ケアマネージャーがかかりつけ医の意見を十分な話し合いを行っている。	重度化した利用者に対し、ターミナルケアの希望が家族から出された場合や状況に応じ、家族・医師・ケアマネージャーなどが話し合い十分なケアができるよう方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の協力を得て、事業所で全ての職員が応急手当の訓練を行い実際の救急搬送では初動操作を落ち着いて行えた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は利用者、職員共に定期的に行っている。 近隣の住宅や老人クラブにも参加を呼び掛け協力を得ている。	消防署の協力を得、定期的に避難訓練を行っている。災害時に備えマニュアルや緊急連絡網が作成され、ビスマットや水などの備品も用意されている。また、地域住民への呼びかけを行っている。	更なるグループホームの向上のため、運営推進会議などの場を借り、民生委員や区長などから近隣住民に対し呼びかけされることを望みます。

グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格や身体状況に合わせた対応を職員全員が心がけている。	利用者一人ひとりの性格や身体状況に合わせ、さりげない言葉かけや対応を心がけることでプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買物、美容院、外出援助、電話、その日に食べたい料理など、利用者の希望は出来るだけ叶えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の心の状態と身体状況に合わせ運動や作業療法を無理強いすることはない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院、理容院への外出援助衣料品店での洋服選びにも付き添い、好みの服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おひな祭りのおすし、ケーキ作り、ゴールデンウィークの料理など、一緒に作業する。職員は交代で食事を共にしている。片付けは毎日手伝って下さっている。	ひな祭りのお寿司やケーキづくりなど特別なメニューの時は利用者が張り切って手伝っており、職員も利用者と同じテーブルで食事し、利用者が後片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は介護記録に毎日朝屋夕と記入して確認している。 糖尿病の利用者には部屋にも水分を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の食事の時の歯磨きを援助している。 歯のない利用者には本人に合わせうがいやイソジンでの口の中の清拭を行っている。		

グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前、おやつ前に定期的に声掛けをして、トイレ誘導、オムツの利用者も定期的にチェックしてパットのみの利用にしている。	10時・昼食後・15時・夕食後などにさりげなく声かけをしトイレ誘導やパットの交換を行っている。また、個々に排泄チェック表を作成し記録に残すと共にトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニュー表で毎回の食材をチェック。食事の中に繊維質、緑黄色野菜を取り入れている。飲み物はお茶、コーヒー、紅茶、ジュースなど水分補給に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は大体決まっているが、体調不良で入れなかった利用者は別の日に入浴してもらっている。その他、足浴も行っている。	入浴日は大体決まっているが、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴支援を行っている。入りたがらない利用者には、トイレに立つタイミングを見計らって声かけをし入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室とホールは自由に往来ができ、休息をとる時間も自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の症状に合わせた薬の内容を理解しており、身体状況が変わった時にはかかりつけ医に連絡、変更を頼んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の職歴や趣味を生かした作業療法や運動を取り入れ楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日公園での散歩をしたり、夏の暑い日ざしにも冬の冷たい空気にも体が慣れて鍛えられている。外出に車が必要な場合は経営者や男性職員が外出援助している。	ほとんど毎日近くの公園に散歩に出かけたり、喫茶店や近隣住民との会話を楽しんでいる。また外出に車が必要な場合は、経営者や男性職員が運転し外出援助を行っている。	

グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持っている利用者とその所持している金額を把握しており、利用者の判断力に応じた使い方を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚にによく電話を掛けてもらい、ゆっくりと会話してもらっている。 手紙の希望があれば便箋、はがきを用意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には利用者と共同で育てている四季の花があり、利用者を和ませている。 廊下には利用者の共同作品が季節ごとに張り替えられる。	共用空間は広く利用者一人ひとりが落ち着き安心感を与えている。また玄関前に利用者と共に育てている四季の花や野菜などがあり、廊下には作品が季節毎に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性と身体状況に合わせた席が決めてあり、気の合う利用者が語り合う光景も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの部屋に家族の写真があったり、表彰状があったり、趣味に合わせたポスターがあり家庭のような雰囲気がある。	利用者の馴染みのあるものや家族の写真・まんが本を置いたり、表彰状や仏壇を備えている利用者もあり、居心地良く生活出来るよう支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、風呂、トイレの全てに手すりが多くつけられており、なるべく一人で排泄入浴が出来るようになっている。		